

市ヶ尾中Times

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/ichigao>

<学校教育理念>

自立貢献

発行者：校長 竹下 恭子
市ヶ尾中 Tel 045-973-3400

今年度の中学生の取り組み、今私たちにできることは何か SDGs 17の目標に向けて・3年生課題探究

校長 竹下 恭子

9月に前期期末試験が実施され、前期終了までの残りの日々が少なくなってきました。生徒の皆さんにとって、休校中を含めてこれまでの自分の学習方法を振り返る、まとめの時期にきているといえます。

さて、市ヶ尾中ではSDGs(持続可能な開発目標)について、学校全体の課題という認識を持ち、これまでも取り組んできていますが、今年のコロナ禍において何ができるか、試行しながら進めているところです。

9月の総合的な学習の時間に、各クラスで「世界が抱える課題について、これから先も持続可能な地球にしていくために、今自分ができることは何か」というテーマで意見を出し合い、考えを交流する学習を行いました。SDGs17の目標について、それぞれが感じている危機感をもとに優先順位の高い順に考え、それをもとに意見交流をする、という活動でしたが、各学年の学びの実態に沿って、深まりや高まりが見られ、とても興味深く、授業の様子を参観しました。3年間の学習の積み重ねは、少しずつですが、着実に身につけているようです。

2年生の道徳の時間では、市中の良いところを話し合い、『今の私たちにできることは何か。』というテーマで意見交流をしました。

○グループの交流で出ていた意見 例えば…

- ・地域やまちの人に感謝の気持ちを伝える。
- ・あいさつや感謝の気持ちを言葉にして伝える。
- ・校舎や体育館の倉庫などの掃除をする。
- ・市中の良いところを子どもたちに伝える。
- ・自らごみを出さないようにする。
- ・ユネスコスクールとして今できることに取り組む。(SDGsの取組を広く伝える。)



3年生 平和宣言代表選考会を実施

9月24日(木)平和宣言代表選考会が3年の学年集会で行われました。3年間これまで学んできた平和学習の集大成として、各クラスの代表1名が自分の思いをスピーチで伝えました。選考基準に①心に響く内容②聞いていてわかりやすい③平和への意思、思いが伝わる、の3つが挙げられていましたが、クラス代表一人ひとりの宣言を聴いて心に迫るものがありました。

・核兵器について学習はできても行動に起こせる人は少ない。他人事ととらえず、日本だけでなく、世界に向けて発信したい。
・過去を振り返り、一人ひとりの行動で世界を変える。
・関係ないことととらえず、今中学生だからこそできることをしていく。
・他を認め合うことが大切。平和への小さな身近な一歩を続けることが大切。
広島の地に、この平和宣言が無事に届けられることを願っています。

第2回学校運営協議会を開催しました

8月31日(月) 第2回市ケ尾中ブロック学校運営協議会を東市ケ尾小学校で開催しました。

今回は「学校と地域とのつながり」という視点で、学校の取組として現在行っていることを一覧表にして示し、それをもとにグループ協議を行いました。

3グループに分かれての協議では、現在実施している地域と関わりのある行事や取組の特色や良さの確認、小中のつながりのさらなる充実や発展、地域の方々の人材活用等、さまざまな切り口から意見交換を行い、交流を深めました。

3校の推進ブロックにおける9年間で育てたい子どもの姿として「多様性を認め合い、共に支え合うことができる子ども」「笑顔と挨拶があふれる子ども」を掲げていますが、日常的に継続的に続けられる活動や取組を「笑顔」と「挨拶」をキーワードに取り組んでいけると良いのでは、というまとめになりました。

地域の方々とのつながりは、9年間の市ケ尾中ブロックの子どもたちの成長にとって大きな支えであると実感します。次回の協議会は、12月に荏田西小学校で開催予定です。



ようこそ市ケ尾中学校へ ～新たに市ケ尾中に着任した教職員を紹介します～

◆非常勤講師 稲垣 光子 先生◆

8月から学習ルームと7、8組の皆さんと一緒に勉強することになりました稲垣光子(いながきみつこ)です。着任して1か月以上経ちました。

毎日明るく元気な挨拶声で笑顔とやる気を分けてもらっています。一日一日を大切にしながら皆さんが充実した学校生活を送ることができるよう、精一杯努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



◆市ケ尾中学校ブロック スクールソーシャルワーカー(河原あゆみ SSW)◆

はじめまして。今年度市ケ尾中ブロックを担当する、
スクールソーシャルワーカー(SSW)の **河原(かわら)あゆみ** です。
この度、お子様や保護者の方々がどんな課題を抱え、どんな援助を必要と
しているのかを知り、お子様にとってより良い支援を考えるため、定期的に
学校をお伺いすることとなりました。お困りのことがございましたら、学校に
お声かけください。SSWは、福祉的な視点でお子様・保護者の方のご相談を
伺います。一緒に問題解決に向けて考えます。よろしくおねがいします。



今年度のSSWについて

SSWは今年度から横浜市の全小中学校巡回型配置となり、原則として月に1回程度、各学校に勤務することとなりました。 ご相談のある方は本校専任(Tel 973-3400)までお問合せください。

自分を、友達を大切に… スクールカウンセラーより

SC:長谷川良子

1年生の皆さん、中学校生活はいかがですか？楽しいっぱいの人、普通だよという人、できたら小学校に戻りたいなど思う人など、皆さんそれぞれの思いをお持ちのことでしょう。2年生、3年生の皆さんも、日々の生活の中で、うれしいな、おもしろいなと感じる時もあれば、不安や心配で心がいっぱいになって、つらく苦しく感じる時もあるでしょう。

部活動などが再開されて、皆さんのいきいきした表情を拝見すると、コロナ禍状況にあることを一瞬忘れてしまいます。でも、現実には、感染拡大予防対策を維持する必要があるあって、新しい学校生活に慣れるのにもストレスが蓄積している頃かもしれません。ちょうど夏の疲れも出る時期です。疲れを感じる度合いは人それぞれであり、自分では気づきにくいほど疲れてしまっていることもあるでしょう。たとえば、「なんだか今の自分に自信がもてない」とか、「心配なことがあって、食欲がない」、「眠れない」、「お腹が痛くなる」、「イライラがずっと消えない」、「消えたい」と思ったり、自分自身を傷つけたりする。それは、あなたの心のSOSかもしれません。

皆さんは、自分がつらい気持ちになった時、どんな対処方法をしていますか？「大声で叫ぶ」「思い切り歌う」「せんべいをバリバリ食べる」「氷を強く握りしめる」などといった対処方法もあります。でも、一番のおすすめは、身近にいる大人に話すという方法です。家族や地域の方、担任や養護の先生、部活の先生、そしてスクールカウンセラーなど、相談しやすいと思う大人に話してみてください。相談するのは勇気がいることだし、実はわかってくれる大人に出会うことは簡単ではないのです。ですから、少なくとも3人の大人に話してみましよう。電話やメール相談のできる相談機関もあります。そして、市ケ尾中のカウンセラー室を忘れないでいただきたいのです。皆さんの心が少しでものびのびと楽になるように、心込めてご一緒に考えさせていただきます。

ところで、お友達がつらそうにしていたら、どうしますか？「大丈夫？」「どうしたの？」と声を掛けて、話を批判しないでよく聞いてあげてください。お友達の気持ちが落ち着いたら、信頼できる大人と一緒に探して、一緒に相談についてあげるのもよいでしょう。かけがえのない1人ひとりです。どうか、ご自分を、そしてお友達を大切にしてください。

SCの10月の勤務日は… 8日、15日、22日、29日の各木曜日です。

※十分な時間を確保するため、予約制としています。専任や担任の先生などを通して、または直接次の番号にお申込みください。電話相談も可能です。045-972-0335（9時半～16時半。13時～16時半）

学校図書館の授業支援 ～3年生英語科の例を紹介します～

学校司書 梶村 ちほ

◆9月の学校図書館◆

学校図書館で本の貸出しをするようになってから4か月ほどがたちました。学校図書館内での閲覧ができるようになったのが7月末からで、生徒のみなさんには長らくご不自由をおかけしました。これまでに1600冊ほどの貸出しがありました。放課後の開館時にはマンガを含めた読書をしたり、問題集を広げたり、友達と作業したり、穏やかな時間の流れがあります。私のとても好きな時間です。

◆Visas for 6,000 Lives◆

3年生の英語の教科書に「Visas for 6,000 Lives」という読み物があります。これは、第二次世界大戦中リトアニアのカウナスという町の日本領事館に勤務していた外交官杉原千畝が、本国の命令に反して、第三国を経由しての亡命を希望するユダヤ人に日本の査証を発行し、その査証のおかげで6,000人にのぼるユダヤ人がナチス・ドイツの強制収容所行きを免れて命を守ることができた、ということについての物語です。終戦から75年がたち、戦争の時の記憶は失われつつあります。「語り継ぐ」ということも簡単でない「今」ですが、過去に学ぶのは大切なことです。

SDGsの17の目標は現代的な課題ではありますが、ひとたび戦争が起こるといくつもの目標がたちまち持続不可能になります。杉原千畝の物語は大事な決断を迫られたときに、人としてどうあるべきか、何を基準に考え、どう行動したらよいのか考えさせられる物語でもあります。

学校図書館では英語科より依頼をうけ、杉原千畝の伝記や第二次世界大戦(ヨーロッパ戦線)について理解するための本、ホロコーストやナチスの行ったことに関連するノンフィクションや小説を集めて3年生の教室前に展示しました。展示した本のブックリストを作成し、第3学年の生徒と全教職員に配布しました。英語の教科書の読み物の理解を深めるだけでなく、世界の問題に気付くきっかけになると良いと思います。

学校図書館では各教科と連携して、授業内容をより深く理解するための図書を生徒の身近に置く、という形での授業支援を行っています。



3年生の廊下に並べられている「Visas for 6,000 Lives」に関する本とその紹介ポップ。いつでも手に取ることができます。



図書室での感染予防対策として透明ビニールシートの仕切り板を各テーブルに設置しています。